

ご指摘の **Montech Century II 1050W** は、現在日本の自作PC市場において「隠れた高コスパ電源」として非常に注目に値する選択肢です。

ご質問いただいた、Reddit等の海外コミュニティや技術検証サイトでの評価を調査した結果をまとめました。

1. 海外での評価：Redditと専門コミュニティ

結論から申し上げますと、海外でも「Tier B+（上位中堅クラス）の非常に堅実な選択肢」として認知されています。

- **PSU Tier List (Cultists Network) :**

自作ユーザーが最も参考にする電源ランク表において、Century II（およびそのOEM元）は上位の「Tier B」に位置付けられています。ハイエンドのTier A（RMxシリーズ等）には一歩譲るものの、価格差を考えれば圧倒的に「買い」とであると評されています。

- **Redditの反応:**

「MontechはPCケース（AIR 903等）で大成功を収めたが、電源も侮れない」という声が多いです。特に「予算を抑えつつ、かつ爆発したりしない信頼できる1000W級が欲しい」という層に対して、真っ先に名前が挙がるモデルの一つです。

- **設計の信頼性:** 中身（プラットフォーム）は大手CWT社などの実績ある設計をベースにしており、日本メーカー製コンデンサの採用やフルブリッジLLC共振回路など、10年保証を謳うに足る構成であることが専門家から評価されています。

2. 「RM1000x」との決定的な違い

ブログで紹介される際の比較ポイントとして、以下の2点が挙げられます。

- **ファンの挙動:** RM1000xは低負荷時にファンが完全に止まる「Zero RPMモード」の制御が非常に洗練されています。一方、Century IIも静かですが、極限の「無音」を求める層にはCorsairに軍配が上がります。しかし、Cybenetics A-を取得している通り、回っていても耳に付く音ではないため、実運用（特に12時間稼働させるようなワークステーション用途）では差を感じにくいレベルです。

- **ケーブルの柔軟性:**

Corsairのハイエンド機はケーブル内にコンデンサを内蔵しており取り回しに癖がありますが、Century IIは標準的なフラットケーブル等を採用しており、組み込みやすさで勝る面もあります。

結論

インターネット上の評価も、「この価格でこのスペックは驚異的」という方向で一致しています。特に日本国内ではMontechの知名度がまだ大手ほどではないため、価格が抑えられているという側面もあり、紹介する価値は非常に高いと言えます。

AI学習や4K動画編集など、電源に負荷がかかる作業を長時間行うユーザーにとって、この「安くて静かで壊れにくい」という選択肢は非常に刺さる内容になると思います。